

令和7年6月10日(火)

50<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY



画像は、3年生の学年掲示板です。

之を知る者は 之を好む者に如かず

之を好む者は 之を楽しむ者に如かず

論語の引用です。今、3年生は、国語で論語の学習をしており、生徒の投票で今月の掲示板の言葉が選ばれました。意味は、「物事を理解し知っている者は、それを好んでいる人には及ばない。物事を好んでいる人は、それを心から楽しんでいる者には及ばない。」となります。3年生は、進路選択にあたり、論語の言葉を自分事としてとらえているのでしょう。この言葉は、受け身で学ぶよりも、主体性をもった学びが大切であることを教えてくれます。日本にも「好きこそものの上手なれ」という諺がありますが、学ぶ意欲が重要であるという考え方は万国共通であることを改めて実感します。



1年生の国語は、詩の学習でした。前時で学習した表現方法の工夫（体言止め、省略、擬人法、倒置法 など）を用いて、詩の特徴を捉え、描かれた情景をイメージするのが本時のねらいです。教材となる詩は、木坂涼氏の「魚と空」です。この学習では、小グループでの話し合いをチームスでまとめ、それをクラス全体で共有する授業を展開しました。自分のタブレットの画面には、各グループの意見が次々アップロードされてくるので、それを参考にして、自分たちの考えを振り返ったり、深めたりすることができます。詩の解釈は、一人一人違ってよいので、さまざまな考え方に多く触れることが可能な ICT の活用は、このような授業との相性はとてもよいと感じます。



国語の話題三連投。最後は、2年生の枕草子の授業です。枕草子の第151段に「うつくしきもの」という一節があります。「うつくしき」とは、現代語でいうところの「愛らしい」「かわいらしい」にあたる言葉です。「うつくしきもの」には、清少納言が感じた可愛らしいものが縷々綴られています。主に小さな子供の何気ない行動を捉えて、「うつくし」と評価しています。そこから派生して、本時は、生徒一人一人に「可愛らしい」と思うものを考えてもらいました。スクールタクトを活用し、みんなで「可愛らしい」と思うものをデジタル付箋で貼っていくという活動です。犬、猫、ウサギ、コアラ、ペンギン、ハムスター、ステイッチ、プリキュア、お母さん…などなど、さまざまな意見が集まりました。私も、生徒のタブレットを借りて、「西中生」と打ち込みました。（笑）

